

原 著

透析部門の看護師がともに働く  
透析看護認定看護師から受ける影響

Impact that staff nurse of dialysis department receive from  
Dialysis Nursing Certified Nurse

畑 真紀子<sup>1)</sup>      林 千冬<sup>2)</sup>  
Makiko Hata      Chifuyu Hayashi

キーワード：影響，透析看護認定看護師，看護師，質的研究

Key words : impact, Dialysis Nursing Certified Nurse, nurse, qualitative research

要 旨

高齢患者や糖尿病性腎症患者の増加により、セルフケアが困難な透析患者が増え、看護師にはより高い透析看護の専門的能力が求められるようになってきている。本研究は透析部門の看護師がともに働く透析看護認定看護師（透析看護 Certified Nurse 以下、透析看護 CN と略す）からどのような影響を受けているかを明らかにすることを目的とし、透析看護 CN が従事する透析部門で働く 5 施設の看護師 10 名に半構造的面接を行い質的記述的に分析した。

その結果、看護師がともに働く透析看護 CN から受ける影響として 12 カテゴリー - 36 サブカテゴリーが生成された。看護師は透析看護 CN の透析患者を尊重した関わりを見習い、透析患者の多様な側面を把握しケアする大切さを知るようになっていた。また、透析看護 CN からの助言や後押しで安心感を持ちケアを行うことができ、未経験のケアに挑戦する意義を知るようになっていた。そして、透析患者に提供するケアの幅が広がり、透析看護 CN から指導を受けることで系統立った学びができ、研究や勉強に取り組む意欲を持つようになっていた。さらに看護師は、透析看護 CN の実践を目の当たりにし、指導を受ける中で、自らの看護を省みる機会を得ていた。一方看護師は、透析看護 CN から役割を任せられ成長していると実感し、透析看護 CN がスタッフを根気よく指導する姿に感銘を受けていた。これらの結果、透析看護 CN とともに働く看護師は、透析看護にやりがいをもてるようになり、将来のキャリアを描くきっかけを得ることにつながっていることが明らかになった。

Abstract

Dialysis patients are increasing steadily. Due to the increase in elderly patients and patients with diabetic nephropathy, the number of patients who have difficulties in self-care has increased, and care in dialysis has become complicated. Meanwhile, the number of workers in dialysis medical care is on a downward trend, and nurses are required to have higher professional abilities. This research is directed to dialysis Semi-structured interview and analyzed qualitatively descriptively with 10 nurses who work for 5 facilities in which Dialysis Nursing CN engaged, with the aim of clarifying what kind of

受付日：2018年11月1日 受理日：2020年1月15日

1) 兵庫医療大学 Hyogo University of Health Sciences

2) 神戸市看護大学 Kobe City College of Nursing

influence is being received from the Dialysis Nursing CN in which departmental nurses work together.

As a result, 12 categories 36 sub categories were generated as the influence that nurses work with Dialysis Nursing CN working together. The nurse apprenticed the relationship that respected dialysis patients of Dialysis Nursing CN, and aware of the importance of grasping and caring for various aspects of dialysis patients. Also, advised by dialysis nursing approved nurses and boosted feeling of security with care and care, it was getting to know the significance of challenging inexperienced care. Then, the range of care provided to dialysis patients expanded, and they were able to learn systematically by receiving guidance from dialysis nursing approved nurses, and to have motivation to study and study. The nurses saw the practice of dialysis nursing approved nurses and got the opportunity to see their nursing while receiving guidance. On the other hand, the nurse was entrusted with a role and was growing up, and impressed by the figure that the Dialysis Nursing CN approved nurse gently guides the staff. As a result of these influences, it became clear that nurses working with Dialysis Nursing CN led to the challenge of dialysis nursing and gained the opportunity to draw future careers.

## I. 序論

わが国において、透析療法を受ける患者（血液透析療法または腹膜透析療法を受ける患者。以下、透析患者と略す）は1968年以降増加しており、2016年329,609人となった（日本透析医学会，2018a）。新規透析導入患者は2000年以降、毎年30,000人を越えている（日本透析医学会，2018b）。これらの結果、透析関連の医療費は1兆円を大きく超え医療財政を圧迫しており、十分な医療を提供しつつ透析医療費を抑制することは緊急の課題となっている（秋澤，2012）。

人口の高齢化に伴い、透析患者の高齢化も顕著となっている。加えて、医療技術の進歩により透析導入後の平均余命が延伸し、合併症を持つ透析患者も増加している。それゆえ透析医療に従事する看護師には、こうした透析患者の増加に対応できる高度な専門的知識と技術が求められている。

このような中、2003年に日本看護協会が認定看護師の特定分野として透析看護分野を承認し、透析看護認定看護師（透析看護 Certified Nurse 以下、透析看護 CN と略す）の認定が開始された。2019年6月時点では、全国で252名の透析看護 CN が登録されている（日本看護協会，2019）。

透析看護 CN は、自己決定支援のための患者教育、安全・安楽な透析治療の管理、患者の生活調整、スタッフへのコンサルテーション（相澤，2010）や慢性腎臓病（Chronic Kidney Disease 以下、CKD と略す）患者の看護、ならびに透析療法選択時の自己決定の支援（神保，2010）を行うスペシャリストである。平成24年診療報酬改定においては、外来糖尿病患者に対し糖尿病透析予防指導管理料が診療報酬として

算定可能となり、その要件として透析予防診療チームの設置が求められた。透析看護 CN の資格取得者であることは、このチームに所属する看護師の要件の一条件となっている（日本糖尿病教育・看護学会，2012）。

このように診療報酬上の評価を得た透析看護 CN は、実践・指導・相談の役割を軸に活動を広げつつある。しかし一方で、透析看護 CN の医療現場や社会における認知度はまだ低く、組織上の位置づけも施設によって様々であり認定看護師としての活動の時間が十分確保できない場合も多いと指摘されている（相沢，2010）。今後、透析看護 CN の活動をより拡大していくためには、その効果を明らかにする必要がある。

海外文献においては、透析部門で従事する Nurse Practitioner（以下、NP と略す）および Certified Nurse Specialist（以下、CNS と略す）による活動の効果について調査研究がなされており、NP および CNS が従事する透析チームの患者のほうが血液データなど患者アウトカムの複数の項目について良好なコントロールがなされていることが明らかになっている（Harwood, Wilson, Heidenheim, et al, 2004）。

他方、国内では他分野の認定看護師に関する先行研究がいくつかある。これらを見ると、認定看護師の活動の効果は患者アウトカムを明らかにしているものと、看護師や医療従事者への効果を示しているものとに大別される。これらの結果からは、認定看護師の活動が患者アウトカムに良い影響をもたらすし、ともに働く看護師のケアの質や士気の向上をもたらすことが示唆されている。

透析看護 CN の活動が、患者アウトカムにどのよ

うな影響をもたらすかを明らかにするためには、透析患者のアウトカム指標の開発が必要だが、現在のところ未開発である。そこで本研究では、まず、透析看護CNとともに従事する看護師への影響を検証することで、その活動の効果について明らかにしようと考えた。

## II. 研究目的

本研究の目的は、透析部門の看護師がその職務において、ともに働く透析看護CNからどのような影響を受けているかを明らかにすることである。

このことは、透析看護CNの活動の実態とその効果の一部を明らかにし、透析看護CNの社会的認知と活動の場の拡大に役立つ一資料になると考える。

## III. 研究方法

### 1. 研究デザイン

本研究は、質的記述的研究デザインとした。

### 2. 用語の定義

本研究において用語の定義は以下のとおりである。

「透析部門」：病院において血液透析または腹膜透析の治療が提供されている部署

「透析看護CN」：透析の看護分野において熟練した看護技術と知識を有することが認められ日本看護協会認定看護師認定審査に合格し、透析部門での勤務を継続している看護師

### 3. 研究協力施設及び研究参加者

研究協力施設は、西日本に所在する透析部門に関わる透析看護CNが従事する施設5施設程度とした。研究参加者は、研究協力施設の透析部門の看護師として2年以上の勤務経験があり、かつ1年以上透析看護CNとともに働いた経験がある看護師10名程度とし1施設につき2名程度とした。看護師の勤務経験を2年以上としたのは、透析部門での実践において透析看護CNとともに働くことで受けている影響についての語りを十分に得る必要があるためである。

研究協力依頼については、まず施設としての研究への参加の可否を看護部長に確認し、同意が得られた場合は透析部門の看護師長と透析看護CNを紹介してもらった。なお、透析部門の看護師長または透析看護CNのどちらか一方が本研究の説明を受ける

ことや研究実施に同意しなかった場合、当該施設は研究協力施設にはしないこととした。

透析部門の看護師長ならびに透析看護CNの両者から同意が得られた場合、看護部長に透析部門で対象となる看護師の紹介を依頼した。看護部長に紹介され本研究に関する説明を受けることに同意された看護師に対し、文章と口頭で研究の目的と意義について十分に説明した。その後、研究への参加に同意を得られた看護師を研究参加者とした。

### 4. データ収集期間

2013年7月から2013年9月であった。

### 5. データ収集方法

研究参加者である看護師1名につき1回約60分のインタビューを実施した。インタビューは、半構造的インタビューとした。インタビューガイドを使用し、以下のような質問をした。

「あなたが透析看護CNとともに働くことで影響を受けた具体的な体験や場面についてお聞かせください。また、その体験や場面から受けた影響はどのような影響であるかについてお聞かせください。」

インタビューの際は、研究参加者である看護師の同意を得て内容をICレコーダーに録音した。また、語られた時の感情やそれを示す表情や身振りなど録音ができないデータはフィールドノートに記録し、データ分析時に使用した。

### 6. データ分析方法

インタビューデータは、以下の手順で質的記述的に分析した。まずICレコーダーに録音したデータに基づき逐語録を作成した。逐語録を繰り返し読み、併せてフィールドノートの記録を参照し、語られた内容の把握を行った。研究課題に関連していると思われるデータに着目しながら、可能な限り研究参加者の言葉を用い意味あるまとまりでデータをコード化し、コード間の相違点、共通点に着目しながら分類した。複数のコードが集まったものにふさわしい名前を付け、コードからサブカテゴリー、サブカテゴリーからカテゴリーへと概念の抽象度を上げていった。最後に得られたカテゴリー間の関連を検討した。

## 7. 厳密性の確保

分析結果の厳密性確保のため確実性、適用性、一貫性、確証性について検討した。確実性は、インタビューで得たデータの解釈が妥当であるかどうかについて研究参加者2名にメンバーチェックを依頼し、分析結果が真実であることの信用性を確保した。適用性は、カテゴリー化までの作業において、見いだされた概念についてできるだけ詳しい記述を行い確保した。一貫性は、質的研究に精通した研究者と定期的にディスカッションすることで確保した。確証性は質的研究に精通した研究者にスーパーバイズを受けること、豊富な臨床経験を有する大学院生とのディスカッションを行うことで確保した。

## 8. 倫理的配慮

本研究は神戸市看護大学倫理委員会の承認を得た研究計画書に基づき実施した（承認番号2013-2-07-③）。研究協力者の看護部長と透析部門の看護師長、語りの対象となる透析看護CN、研究参加者である看護師への倫理的配慮として自己決定の権利の保障、不利益を受けない権利の保障、情報を得る権利の保障、プライバシーと匿名性、厳密性確保の権利の保障を行った。これらは研究協力依頼書に明記し文章と口頭で十分説明を行った。なお、研究協力施設から倫理審査を求められることはなかった。

## IV. 結果

### 1. 研究参加者の概要

研究協力施設は5施設、研究協力施設の透析看護CNは5名で、資格取得後の経験年数は平均4.6年（SD±2.0）であった。研究参加者である看護師は10名で看護師経験年数は5～27年、平均10.9年（SD±6.8）であった。透析部門の経験年数は2～9年、平均5.1年（SD±2.3）であった。透析看護CNと関わった期間は1～6年、平均2.7年（SD±1.9）であった。

### 2. 看護師が透析看護CNから受ける影響

データ分析の結果、看護師がともに働く透析看護CNから受ける影響として、12カテゴリー36サブカテゴリーが生成された（表）。インタビュー中、透析看護CNに対する否定的な意見は全く聞かれなかった。以下では看護師がともに働く透析看護CNからどのような影響を受けていたのかについて、カ

テグリー間の関連にもとづいて説明する。なお、カテゴリーは【 】で示す。

看護師は、透析看護CNの患者に関わる姿勢から、【透析患者を尊重した関わりを見習う】ようになり、透析看護CNの実践と指導から、【透析患者の多様な側面を把握しケアする大切さを知る】ようになっていた。また、透析看護CNが最新の研究成果やエビデンスに基づき実践を行い、透析困難な患者に対してケアを行う姿を目の当たりにして【未経験のケアに挑戦する意義を知る】ようにもなっていた。看護師たちは透析看護CNに日常的に相談し、的確な助言や後押しを得て【安心感を持ちケアができる】中で、透析看護に対する新たな知識や技術を得るようになっていた。そして、【透析患者に提供するケアの幅が広がる】ようになり、看護師の活動も変化していた。

また、看護師は透析看護CNの優れた実践を見ることや、研究への支援を受けることによって【研究や勉強に取り組む意欲が持てる】ようになり、透析看護CNからの指導を受け、学会参加を促されたりすることで【系統立った学びができる】ようになっていた。これらは看護師の学ぶ意欲の向上を示し、透析でのケアに関する知識や行動が変化していることも相互に関連していた。

さらに看護師は、透析看護CNの優れた実践を見たり指導を受けたりすることで【自らの看護を省みる機会を得る】ようになっていた。このことは、先に示したケアに関する知識と行動の変化や看護師の学ぶ意欲の向上と相互に関連していた。

一方看護師は、透析看護CNからスタッフ教育やフットケアなどの【役割を任せられ成長できる】と実感していた。また、透析看護CNがスタッフへ関わる姿勢から【スタッフを根気よく指導する姿勢に感銘を受け（る）】ており、このことは透析でのケアに関する知識や行動の変化と相互に関連していた。

以上のような影響を透析看護CNから受けた結果、看護師は【透析看護にやりがいをもてる】ようになり、【将来のキャリアを描くきっかけを得る】ようになっていた。

次節からは、透析部門で働く看護師が透析看護CNからどのような影響を受けていたかについてのカテゴリー、サブカテゴリーと語りの一部を紹介する。なおサブカテゴリーを〈 〉語りを「 」で示す。

表 「透析部門の看護師がともに働く透析看護認定看護師から受ける影響」 カテゴリー-サブカテゴリー一覧

| カテゴリー                    | サブカテゴリー                       |
|--------------------------|-------------------------------|
| 透析患者を尊重した関わりを見習う         | 透析患者の考え方を大事にして傾聴する姿勢を見習う      |
|                          | 透析患者を尊重し節度ある関係を維持する姿勢を見習う     |
|                          | 透析患者に根気強く説明する姿勢を見習う           |
|                          | 怒りや拒否を表した透析患者への対応を知る          |
| 透析患者の多様な側面を把握しケアする大切さを知る | 透析患者の様々な側面を捉える視点が広がる          |
|                          | 透析患者の生活に即した指導の必要性を知る          |
|                          | 透析患者が生活してきた過程に目を向ける必要性を知る     |
|                          | 透析の段階による患者指導のポイントがわかる         |
|                          | 透析患者に持病な観察と介入のポイントがわかる        |
| 未経験のケアに挑戦する意義を知る         | 透析実施困難な患者への実践方法を見出してくれる       |
|                          | 新たな情報に基づくケア導入の効果を知る           |
| 透析患者に提供するケアの幅が広がる        | 透析患者の悪化兆候にタイミングを逃さず介入できるようになる |
|                          | 限られた時間の中で透析患者をよくする視点を持ちケアできる  |
|                          | 社会資源を活用できるようになる               |
|                          | 穿刺の技術が上達する                    |
|                          | 透析患者のデータを自ら解釈し実践に生かすことができる    |
| 安心感を持ちケアができる             | ケアの相談ができ安心感がもてる               |
|                          | ケアの後押しが得られ自信を持ち行動できる          |
| 系統立った学びができる              | 透析看護を体系的に勉強することができる           |
|                          | 多様な知識が得られる                    |
| 研究や勉強に取り組む意欲が持てる         | 看護研究に取り組んでみようと思える             |
|                          | さらに勉強する必要性を認識する               |
| 自らの看護を省みる機会を得る           | これまでの看護を振り返ることができる            |
|                          | 研究を通じて新たな考え方に気が付く             |
|                          | 自らの不十分な点を率直に省みることができる         |
| スタッフを根気よく指導をする姿勢に感銘を受ける  | スタッフを責めずに指導する姿勢を見習う           |
|                          | スタッフの成長を諦めず指導する姿勢に感銘を受ける      |
|                          | スタッフがやる気を保てるように関わる姿勢に感銘を受ける   |
| 役割を任せられ成長できる             | 勉強会を自立して運営できるようになる            |
|                          | フットケアを任せられさらに頑張りたいと思える        |
|                          | スタッフ指送を任せられ成長につながっていると実感する    |
| 透析看護にやりがいをもてる            | 透析看護がおもしろいと思える                |
|                          | 自分で判断しながら実践でき透析看護にやりがいをもてる    |
| 将来のキャリアを描くきっかけを得る        | 将来の看護師としてのキャリアに目標をもてる         |
|                          | 透析領域での資格取得を志すようになる            |

### 1) 【透析患者を尊重した関わりを見習う】

このカテゴリーは、透析看護CNが患者を人として尊重し考え方を大切にしながら個々の患者に適切なケアを提供する姿を、看護師が見習っていることを示すカテゴリーで、4サブカテゴリーから構成されていた。

サブカテゴリーの1つである〈透析患者に根気強く説明する姿勢を見習う〉の語りを紹介する。

「透析時間とか、患者さんに長くしたほうが負担も減るしいですよっていう話も、透析看護CNがひとりずつ地道に話をされて……患者さんが透析30分のばしてみよかなっていう（風が変わる）。患者さんへは同じような姿勢でいたらいいなと思います」（透析看護経験2年）

### 2) 【透析患者の多様な側面を把握しケアする大切さを知る】

このカテゴリーは、透析看護CNの実践と指導から、看護師が個々の患者の身体的状況や生活発達段階などを把握した上でケア提供を行う必要性を知るようになることを示すカテゴリーで、6サブカテゴリーから構成されていた。

サブカテゴリーの1つである〈透析患者に生じ得る合併症を見越し処置を選ぶ必要性を知る〉の語りを紹介する。

「（透析看護CNが）患者さんのことを考えて……（血圧の低下を予防するため）足挙げすると、やっぱりその人の負担になるし、今後のその血管にもよくないから、極力足挙げを症状が軽い人でも極力足挙げはしないとかと言ったりしたのを聞くと、自分たちもそうしないとな（と思える）」（透析看護経験5年）

### 3) 【未経験のケアに挑戦する意義を知る】

このカテゴリーは、透析看護CNが最新の研究成果やエビデンスに基づいた実践や透析困難な患者に対してケアを行う姿を看護師が目当たりし、その意義を知ることが示すカテゴリーで、2サブカテゴリーから構成されていた。

サブカテゴリーの1つである〈透析実施困難な患者への実践方法を見出してくれる〉の語りを紹介する。

「ほんとにあれよあれよと病態が悪くなって、入退院をされていて、足も悪くなって、両方切ることになって、手もこっち切ることになって、もう本当に血圧測れるところもないんですよ。結局は血圧も測れないので……（透析看護CNが）その人の状態

見ながら除水してたんですよ。発汗量とか、レートや表情見ながら」（透析看護経験5年）

### 4) 【透析患者に提供するケアの幅が広がる】

このカテゴリーは、透析看護CNから指導を受けたり相談をすることで、実際に看護師が透析患者に提供する看護技術の幅が広がっていることを示すカテゴリーで、5サブカテゴリーから構成されていた。

サブカテゴリーの1つ〈透析患者のデータを自ら解釈し実践に生かすことができる〉の語りを紹介する。

「（透析看護CNに指導を受け）心不全になったりとかしたら、レントゲンみて、こういう風な状態だから、先生ドライが適正なんですか？っていうのを自分から進んで言えるようになりましたね」（透析看護経験3年）

### 5) 【安心感を持ちケアができる】

このカテゴリーは、看護師が透析看護CNへ相談する中で的確な助言を得て、自信をもってケアができていくことを示すカテゴリーで、2サブカテゴリーから構成されていた。

サブカテゴリーの1つ〈ケアの相談ができ安心感がもてる〉の語りを紹介する。

「最近の動向はこれ、どうなんですかねと（透析看護CNに聞き）あんま変わらないって言われ（ると）それなら安心でそのように指導していきますって（思える）」（透析看護経験8年）

### 6) 【系統立った学びができる】

このカテゴリーは、透析看護CNから指導を受けることや勉強会や学会などへの参加を促されたことから、看護師が透析看護について系統的に学び知識が得られていることを示すカテゴリーで、2サブカテゴリーから構成されていた。

サブカテゴリーの1つ〈透析看護を体系的に勉強することができる〉の語りを紹介する。

「（透析看護CNは）体系的に勉強してきたはるから、勉強会を（透析看護CNが）開催したりとか、きちんとまとめた形の（勉強会を）してもらえる……私らはまとめて体系的に学習しているわけではないのでシャントの穿刺とかひとつずつこういう所はこうだからって（教えてもらえる）」（透析看護経験9年）

### 7) 【研究や勉強に取り組む意欲を持てる】

このカテゴリーは、透析看護CNから日常的に勉強や研究への支援が得られたことから、看護師が研

究や勉強に積極的に取り組む意欲を持つようになることを示すカテゴリーで、2サブカテゴリーから構成されていた。

サブカテゴリーの1つ〈看護研究に取り組んでみようと思える〉の語りを紹介する。

「研究したり学会発表とかも透析看護CNさんが言ってくれるから、じゃやってみようかっていうような気持ちにさせられるし。私だったらできるよっていうのを言ってくれて、ほんとにやる気にさせてくれるから、じゃ私がんばろっかなっていう気持ちになりますね」(透析看護経験4年)

#### 8)【自らの看護を省みる機会を得る】

このカテゴリーは、透析看護CNの実践を見たり指導を受けることで看護師が自らの看護や業務中の態度を振り返り、新たな考え方を取り入れる機会を得ていることを示すカテゴリーで、3サブカテゴリーから構成されていた。

サブカテゴリーの1つ〈自らの不十分な点を率直に省みることができる〉の語り紹介する。

「私が間違ったことをしていたら(透析看護CNは)それはダメよってはっきり言ってくれはるので。あかんことはあかんてちゃんと行って正してくれるこういう理由やからっていうのをちゃんと理論立てて……(だから)あ、そうですね、すみませんって(気付く)」(透析看護経験8年)

#### 9)【スタッフを根気よく指導をする姿勢に感銘を受ける】

このカテゴリーは、透析看護CNがスタッフ個々に対し根気よく指導し、成長を促進させるよう関わる姿勢に、看護師が感銘を受けていることを示すカテゴリーで、2サブカテゴリーから構成されていた。

サブカテゴリーの1つ〈スタッフがやる気を保てるように関わる姿勢に感銘を受ける〉の語りを紹介する。

「(新人スタッフは)いい感じに上手にやる気を損なわずやれているような気がします。……(透析看護CNは)ちゃんとフォローして見てるし、やれているやんかーとかちゃんと言いますもん、すごいなって思って」(透析看護経験8年)

#### 10)【役割を任せられ成長できる】

このカテゴリーは、透析看護CNに部署でのフットケアや教育の役割を任せられたことで、看護師が自分自身の成長を実感していることを示すカテゴリーで、3サブカテゴリーから構成されていた。

サブカテゴリーの1つ〈フットケアを任せられさらに頑張りたいと思える〉の語りを紹介する。

「(透析看護CNに任されて)フットの係だから、みんなが足みてもらっていいとか、そういう風に言われたら……すごくうれしく思いますね、どうにか(よく)したいなという気持ちが強くなったというか」(透析看護経験3年)

#### 11)【透析看護にやりがいをもてる】

このカテゴリーは、透析看護CNの実践と指導から看護師の透析看護の捉え方が変化し、透析看護にやりがいをもてるようになっていくことを示すカテゴリーで、2サブカテゴリーから構成されていた。

サブカテゴリーの1つ〈自分で判断しながら実践でき看護にやりがいをもてる〉の語りを紹介する。

「(透析看護CNから指導を受けて)CTRとか見たりするのも(するようになった)。その比較とかも、今まではしてなかったと思うんですね……先生の意見だけを聞いていたのですね、だけど今は、それを見て自分なりにアセスメントして、すごく(仕事に)やりがいというか、感じますね」(透析看護経験3年)

#### 12)【将来のキャリアを描くきっかけを得る】

このカテゴリーは、透析看護CNの優れた実践と活動を目の当たりにすることで、看護師が自分自身の将来のキャリアを描くきっかけをつかんでいることを示すカテゴリーで、2サブカテゴリーから構成されていた。

サブカテゴリーの1つ〈将来の看護師としてのキャリアについて目標がもてる〉の語りを紹介する。

「(自分も)CKD外来に入りたいんです。(透析看護CNのように)そこまで信頼を得てきっちりできるかと思うと、難しいなと思うんですけど(自分も)やってみたいなと思うんですけどね」(透析看護経験6年)

## V. 考察

### 1. 透析看護認定看護師配属の意義

今日、透析技術の進歩は著しいが、現段階ではまだ、腎機能を完全に代償するには至っていない。1998年以降は、透析療法を新規に導入される患者の原因疾患としては、糖尿病による腎障害の割合が最も高いまま増加し続けている(北岡, 2012)。糖尿病性腎症の患者は、生活習慣の改善や血糖コントロールが困難であったり、すでに他の合併症を併発

してセルフケアが困難な患者が少なくない。加えて、高齢者の透析導入が増加していることにより、透析患者へのケアはいっそう複雑化している。そうでなくても透析部門の看護師には、身体状況のアセスメントを行いながら体外循環時のケアをすることと同時に、患者の不安や抑うつといった精神的問題にも対処しなければならない。さらに、透析治療のため社会的役割が十分果たせないという問題を持つ患者への支援も求められている（木村，2011；岡，1996）。

しかし一方で、透析室には深夜勤務がないことや、日曜日が確実に休みになるという労働条件ゆえに、透析部門の看護師には、夜勤ができないから「仕方なく」異動したり、あるいは逆に、休みが取りやすいことだけで希望してくるなど、透析看護に熱意や魅力を感じることなく勤務している看護師が少なくないとの報告もある（佐藤，2010）。

中原ら（2002）が、透析施設に従事する看護師を対象に行った調査によれば、自分自身の希望で透析室を選んだと回答した者は、対象となった看護師1,511名の約半数にすぎず、「患者教育の限界を感じる」「透析知識の不足を感じる」「透析技術の未熟さを感じる」「十分な看護ができていない」といった回答の割合も高かったことが報告されている。このような中で、看護師に意欲ややりがいを持たせ、透析看護の質の向上を促進してきた透析看護CNの存在意義は、非常に高いと考えられた。

## 2. 透析でのケアの質の向上と透析看護認定看護師の活動

本研究の結果において、看護師は透析看護CNの実践を目の当たりにし、【透析患者の多様な側面を把握しケアする大切さを知る】ようになっていた。すなわち、看護師は透析看護CNの影響を受けて透析患者の生活を重視したケア介入を行うことや、透析患者に生じる合併症を見越した処置を行うことの必要性を理解するようになっていた。佐藤（2005）は透析での業務は、とかくパターン化されがちであると述べているが、透析看護CNは、患者の生活背景を踏まえ合併症を見越した個別性の高いケアを、自ら実践するだけでなく、透析看護に携わる看護師全体に拡大させていた。

ある看護師はインタビューにおいて「透析患者さんとスタッフは顔を合やす機会が週に何回もあり、

馴れ合いの関係ができる」と語っていた。しかし看護師は、透析看護CNの【透析患者を尊重した関わりを見習う】ようになり、患者を尊重したケアを提供するように変化していた。このように透析看護CNが看護師に与える影響は、透析医療の質を高めることにもつながっていた。

一方、先述した中原ら（2002）の調査では、透析に対する知識不足、透析技術の未熟さなどの悩みを持つ看護師の割合が高いことを指摘している。しかし、透析看護CNがいることで、看護師は日常的に相談ができ【安心感を持ちケアができる】ようになっていた。つまり、透析に従事する看護師の知識不足や技術不足が、透析看護CNが実施する相談によって解消できることも示唆された。以上のように、透析看護CNの配属は、さまざまな点で看護師に影響を与え、透析看護の質の向上に寄与していると考えられた。

## 3. 看護師の資質の向上と透析看護認定看護師の活動

本研究において看護師は、透析看護CNと働く中で【自らの看護を省みる機会を得（る）】ていることが明らかになった。このことは、先行研究では述べられていない新たな知見であった。

近年、リフレクションという概念が看護界で注目されている。これは、経験を振り返ることで同様の場面での課題を明確にする思考・学習方法であり（池西，田村，2012）、看護師にとって、実践知を獲得し蓄積していくために必要な営みであると言われていた（青木，2003）。本研究において、看護師がこれまでの看護を振り返る機会を得ていたことは、透析看護CNの関わりが、看護師のリフレクションを促していたことを示している。

また、看護師は透析看護CNとともに働く中で、【研究や勉強に取り組む意欲が持てる】ようにもなっていた。石久保、岩田、野澤（2002）は、5つの分野の認定看護師を対象とした調査において、認定看護師が研究に費やす時間は少なくないと報告している。この結果と同様に、本研究においても透析看護CNは研究に取り組んでおり、このことが看護師にも影響を与えていることが示唆された。

これらを通じて看護師は、透析看護のおもしろさを感じ【透析看護にやりがいをもてる】ようになっていた。Robbins（2005）は、精神的にやりがいをもてる仕事であることは職務満足感につながる重要な



要素であると述べている。先行研究では、透析看護に熱意を持ってない看護師が少なくないという報告もみられたが(佐藤, 2010)、透析看護CNとともに働くことを通じて、看護師は透析看護にやりがいを見出し、結果的に職務満足が高められることが示唆された。

#### 4. 透析看護CNの職位と看護師の資質の向上

本研究の結果では、看護師は透析看護CNから【役割を任せられ成長できる】、【スタッフを根気よく指導する姿勢に感銘を受け(る)】ていた。ただし、本研究で対象とした透析看護CNのうち、5名中4名は管理職であったことから、これが透析看護CNとしての働きかけなのか、管理職としての働きかけなのかの区別は難しい。これは、透析看護CNが管理職位にあることが、有利に働いたと考えることもできるが、認定看護師の活動と活用に関する調査においては、認定看護師が能力発揮できない理由の1つに管理職との兼務があるという指摘もある(神坂, 松下, 大浦, 2010)。

今回対象となった透析看護CNに管理職を兼務していた者が多かったことから、透析看護CNが管理職との兼務を行う場合、二つの役割をどのように両立させ活かしていくことができるか、引き続き検討することが必要だと考える。

#### 5. 研究の限界と今後の課題

本研究において、看護師から透析看護CNとともに働いたことによる影響として語られたことは、個人がインタビュー中に想起した部分的なものである。今後はさらに、研究協力施設や研究参加者を増やし、より多様な施設の看護師の、透析看護CNから受ける影響を明らかにすることが必要だと考える。

加えて今後は、透析看護CNの活動とそれによって看護師が受けた影響が、患者アウトカムにどうつながるのかを明らかにすることも、重要な課題であると考えられる。

#### VI. 結論

1. 透析部門の看護師から得られた語りを質的記述的に分析した結果、看護師がともに働く透析看護CNから受ける影響として、12カテゴリー36サブカテゴリーが生成された。カテゴリーは【透析患者を尊重した関わりを見習う】【透析患者の多様な側面を把握しケアする大切さを知る】【未経験

のケアに挑戦する意義を知る】【透析患者に提供するケアの幅が広がる】【安心感を持ちケアができる】【系統立った学びができる】【研究や勉強に取り組む意欲が持てる】【自らの看護を省みる機会を得る】【スタッフを根気よく指導する姿勢に感銘を受ける】【役割を任せられ成長できる】【透析看護にやりがいをもてる】【将来のキャリアを描ききっかけを得る】であった。

2. 透析看護CNは、認定看護師としての、実践・指導の役割を果たすことを通じて、ともに働く透析部門の看護師に、患者を尊重し、個性のあるケアを大切にす変化をもたらし、ひいてはケアの質の向上に貢献していた。

3. 透析看護CNは、認定看護師としての相談役割に加え、研究の実践と支援を行うことで、ともに働く透析部門の看護師に、安心して学び成長できる環境を与え、ひいては、やりがい感や職務満足感を高めていた。

利益相反：本研究における利益相反は存在しない。

謝辞：本研究実施にあたりご協力いただいた施設ならびにスタッフの皆様にご心より感謝いたします。なお本研究は2013年度神戸市看護大学大学院看護研究科に提出した修士論文の一部を加筆・修正したものである。

#### 参考文献

- 相澤裕 (2010), 透析看護認定看護師の現状と今後の課題, 日本透析医学会雑誌, 44, Suppl.1, 292.
- 秋澤忠雄 (2012), 腎不全医療の現状と課題, 日本腎不全看護学会 (編), 腎不全看護 (pp.121-134), 医学書院.
- 青木由美恵 (2003), リフレクションの実際 - Gibbs のリフレクティブ・サイクルを活用して, Quality Nursing, 9(2), 147-157.
- Harwood, L., Wilson, B., Heidenheim, AP., Lindsay, RM. (2004), The advanced practice nurse-nephrologist care model: Effect on patient outcomes and hemodialysis unit team satisfaction, 8(3), 273-282.
- 池西悦子, 田村由美 (2012), リフレクション, グレック美鈴, 池西悦子 (編), 看護教育学 (pp.117-128), 南工堂.

- 石久保雪江, 岩田浩子, 野沢明子 (2004), 認定看護師の専門的実践能力に関する検討, 日本看護科学学会誌, 24(3), 81-87.
- 神保洋子 (2010), 活躍する認定看護師 透析看護の現場から, 増刊これからの認定看護師, からだの科学増刊, 121-125.
- 神坂登世子, 松下年子, 大浦ゆう子 (2010), 認定看護師の活動と活用に対する意識 看護管理者・認定看護師・看護師の比較, 日本看護研究学会雑誌, 33(4), 73-84.
- 木村剛, 森田郁代, 鈴木弘美, 南部敦子, 永井知美 (2010), 老老介護夫婦における透析導入期の家族ケア高齢者の血液透析開始に至るかかわりをとおして, 透析ケア, 16(4), 456-460.
- 北岡健樹 (2012) 腎不全医療の歴史, 日本腎不全看護学会 (編), 腎不全看護 (pp.107-120), 医学書院.
- 中原宣子, 森田夏実, 内田雅子 (2002), 透析看護の確立に向けての基礎調査-透析室に従事する看護師の現況, 大阪透析研究会会誌, 20(2), 159-165.
- 日本腎不全看護学会 (2019), 学会概要 認定委員会 活動内容 令和元年6月10日検索 [http://jann.jp/modules/about/index.phpcontent\\_id=16](http://jann.jp/modules/about/index.phpcontent_id=16)
- 日本看護協会 (2019), 専門看護師 令和元年6月10日検索 <http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cns>
- 日本看護協会 (2019), 都道府県別認定看護師登録者数 令和元年6月10日検索 <http://nintei.nurse.or.jp/certification/General/GCPP01LS/GCPP01LS.aspx>
- 日本糖尿病教育・看護学会 (2012), 平成24年度診療報酬新規評価糖尿病透析予防指導管理料-チーム医療における看護の役割-, 特別委員会糖尿病透析予防指導管理料ワーキンググループ 平成31年4月4日検索 [http://jaden1996.com/documents/20120522\\_doc1.pdf](http://jaden1996.com/documents/20120522_doc1.pdf)
- 日本透析医学会 統計調査委員会 (2018a), 図説わが国の慢性透析療法の現況 慢性透析患者数の推移 (図表2) 平成30年10月27日検索 <http://docs.jsdt.or.jp/overview/pdf2012/p03.pdf>
- 日本透析医学会 統計調査委員会 (2018b), 図説わが国の慢性透析療法の現況 年別透析患者数、導入患者数、死亡患者数の推移 (図表3) 平成30年10月27日検索 <http://docs.jsdt.or.jp/overview/pdf2012/p04.pdf>
- 岡美智代, 保科良子, 向高利子, 佐藤正美, 戸村成男, 高橋邦恵, 宇田有希 (1997), 腎不全看護の専門性に関する研究 日米比較を通して, 日本透析医学会雑誌, 30(9), 1115-1121.
- Robbins, Stephen P., (2005/2011). 高木晴夫 (訳), 【新版】組織行動のマネジメント-入門から実践へ, ダイヤモンド社.
- 佐藤久光 (2010), 【透析医療のブレークスルーを探り、将来を展望する】透析看護の変遷と将来あるべき姿, 臨床透析26別巻, 75-82.
- 佐藤裕子 (2005), 効率的なコミュニケーションでマンネリを脱却しよう, 透析ケア, 11(11), 40-41.